

## サステナブル社会における資産運用業のあり方 —ビデオメッセージ—

サイラス・タラポレヴァラ

(ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ社長兼最高経営責任者CEO)

本日は、三つの話題についてお話ししたい。第一は、サステナブルな社会を作るための資産運用会社の役割は何かについて、第二は、新型コロナウイルスの感染拡大が資産運用会社のESGに対する取り組みにどのような影響を与えたかについて、そして第三は、なぜESGの動きが今後も続くのかについて、である。

ステート・ストリート（以下、当社）の使命は、責任ある投資を通じて、経済の繁栄と社会の進歩に貢献することである。サステナブルな社会の基礎は、雇用を創出し、国家の富と繁栄に貢献するような強力な企業で構成されている経済にある。そして、これらの企業が成長を促進し成功するためには、長期的な価値に焦点を当てる必要がある。こうした中で、資産運用会社は顧客資金の投資を通して、資本の配分において重要な役割を果たしている。資産運用会社は、優れたリスク調整後リターンを提供するために、長期的な価値

に焦点を当てている企業に資本を提供すべきである。

世界第3位のインデックス運用者として、われわれは、長期的な負債や目的を持つ長期投資家である年金や財団、公的機関、個人などの代理として、ほとんどすべての上場企業に投資している。当社のアセット・スチュワードシップ・チームを通じて上場企業と行う対話（エンゲージメント）は、企業と取締役会にサステナビリティへの取り組みを促すための最も重要かつ効果のある方法である。われわれは、これらのことを、資産運用業界において求められる明確な役割に基づき行っている。それは、インデックス運用から導かれる上場企業のユニバーサル・オーナーとしての立場に基づくものである。われわれは、インデックスに含まれる限りすべての株式を保有しており、それは永久資本を提供していることに近いものである。この点に関して、バンガードの創始者である



サイラス・タラポレヴァラ (Cyrus Taraporevala)

ステート・ストリート・コーポレーションの資産運用部門であるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズの社長兼最高経営責任者 (CEO)。ステート・ストリート・コーポレーションの最高意思決定機関であるステート・ストリート・マネジメント・コミッティのメンバー。ボンベイ大学（現ムンバイ大学）シデナム・カレッジにて学士号取得、コーネル大学ジョンソン経営大学院にてMBA取得。2019年ニューヨーク証券取引所取締役諮問委員会設立メンバー。The Trustee of Reservations（米国マサチューセッツ州・非営利組織）のボードメンバー。

## サステナブル社会における資産運用業のあり方 —ビデオメッセージ—

ゲアハルト・ヴィースホイ

(B. メッツラー・ゼール・ゾーン&Co. AG代表取締役)

### はじめに

メッツラー銀行（以下、当社）は、アジア、米国、欧州で業務を展開しているが、今日は本社のあるフランクフルトから話をしている。本来であれば皆さまに直接お会いして話したかったが、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響により、残念ながらビデオメッセージの形となった。今日はサステナビリティとESGについて、そして最後に新型コロナウイルス感染拡大から得た経験について話したい。

### メッツラー銀行の紹介

当社は非上場のプライベートバンクである。1674年にフランクフルトで創業した。以来、現在に至るまでの347年の間には、ナポレオンのフランクフルト侵攻、第1次世界大戦、世界大恐慌、第2次世界大戦など、いろいろな困難があったが、それらをすべて乗り越えてきた。こうした当社の歴史を振り返ると、われわれのDNAの中にサス

テナビリティが組み込まれているように思う。当社はメッツラー銀行と称しているが、業務内容は投資顧問会社、資産運用会社と同じと考えていただいてよい。M&Aやリサーチ部門があり、欧州企業リサーチやマクロ、ミクロの経済調査に力を入れている。

当社は日本と長年にわたる関係がある。1893年にメッツラー家の一員であるモーリッツ・フォン・メッツラーが日本を訪問している。当時は明治政府誕生（1868年）の後、ドイツを含む欧州で日本が話題になっていたため、日本を実際に見てみたかったのだろう。当社の書庫にはその時の日本旅行記が大切に保管されており、日本は素晴らしい国だと書かれている。

当社は2001年から、投資顧問業務のサービスとM&Aのアドバイザー業務を東京で行っている。

その長い歴史の中で、サステナビリティ活動との関係も深い。例えば、当社は昔からプロテスタ



ゲアハルト・ヴィースホイ (Gerhard Wiesheu)

B. メッツラー・ゼール・ゾーン&Co. AG代表取締役。1987年コメルツ銀行本社フランクフルトにおいて投資銀行部門を皮切りに様々な職務を経験、1999年コメルツ投信投資顧問本社フランクフルト社長、2001年メッツラー銀行入社、メッツラー・アセット・マネジメント取締役就任、2002年同社グループホールディングス・アセットマネジメント部門担当パートナー（経営役員）、2012年ホールディングス取締役、2015年より現職。メッツラー・アセット・マネジメント株式会社（東京）取締役を兼務。

## サステナブル社会における資産運用業のあり方 —ビデオメッセージ—

ピーター・ハリソン

(シュローダー グループ・チーフ・エグゼクティブ)

シュローダー（以下、当社）と日本との関係は古く、150年以上前にさかのぼる。当社は、横浜と新橋を結ぶ日本初の鉄道敷設の資金調達を目的とした日本政府初の外国債券発行の主幹事を務めた。また、1923年に発生した関東大震災の復興のための資金調達にも貢献した。1974年には日本に事務所を開設し、本格的な事業の第一歩を踏み出した。日本株運用は今でも事業の中核の一つだが、現在は、より革新的でサステナブルかつグローバルな投資機会を幅広く提供している。

本日は、資産運用業界が直面している構造的な変化について話したい。変化の背景にあるのは、二つの大きな力だと考えている。一つはゼロ金利の継続であり、もう一つは2050年までに温室効果ガスゼロを目指す取り組みである。

資産運用会社は、投資家と企業との間に立って、投資家に代わって企業に資金を提供するという重要な役割を担っている。これまでの資産運用では、リターンとリスクに着目してきた。しかし、今や

リターンとリスクを考えるだけでは十分ではない。企業が社会に与えるインパクトも評価する必要がある。新たな第3軸であるインパクトは、資産運用業界のあり方を変えていくことになるだろう。

当社は、新たに、インパクト投資を牽引する資産運用会社、ブルーオーチャード社をグループに迎えた。インパクト投資は、経済的リターンの追求とともに社会にプラスのインパクトを与えることを目指すものだ。アジアでは女性の地位向上、アフリカではインフラ整備や雇用創出などを目指す投資が例として挙げられる。投資家に代わって社会にプラスの変化をもたらすにはどうしたらよいか。資産運用業界はこうした方向に向かっていと考えている。

当社のESGへの取り組みは20年以上前に始まった。これまでに、取得できるデータ量が飛躍的に増加したことから、当社は爆発的な量のデータを有効活用するために一連のツール、「impactIQ」



ピーター・ハリソン (Peter Harrison)

シュローダー グループ・チーフ・エグゼクティブ。1988年、シュローダー・グループ（英国・ロンドン）入社。その後、ドイチェ・アセット・マネジメント、RWCパートナーズなど大手資産運用会社にて、グローバル・チーフ・インベストメント・オフィサー（CIO）、会長兼チーフ・エグゼクティブ・オフィサー（CEO）などを歴任。2013年3月、シュローダー・グループの株式運用グローバル・ヘッドに就任。取締役運用部門統括を経て2016年4月から現職。